

「地域協力者会議」6/17(金)13時半～ 園生小学校視聴覚室にて

出席者 小中台中・園生小・小中台小の校長とPTA会長・役員、小中台中学校区青少年育成委員会会長、小中台公民館長、小中台保育所主任、稲毛区保健福祉センター健康課、生涯学習振興課、こもんずスタッフ 計21名

内容 平成27年度の事業報告・平成28年度の事業計画・家庭教育支援に関する意見情報交換 地域の子ども居場所や子育て環境情報の提供のあり方、いま必要な取り組みやその伝え方などについて話し合いました。小中台地区には多くの機関や団体がありますが、互いに協力して活動することも考えています。

こもんず室見学 家庭教育支援チームは全国で500余りありますが、拠点をもつのは難しい現状です。こもんずは園生小学校内の一室を借り活動拠点としています。この環境を生かした取り組みをずっと検討していましたが、本年度から月1回園生小学校の保護者の方々が気軽に集い話し合えるサロンを開いています。今回は会議の後に皆さんに見て頂き、更なる活用方法についてお知恵を拝借しました。

子育て親育ち講座「みんなで考えようスマートフォン」

小中台中学校区育成委員会共催講座 講師：NPO法人企業教育研究会 参加者44名（小中台小学校長・小中台中学校長・園生小学校教頭先生方も途中参加して下さいました。）

内容 具体的なスマホの危機管理について「ネット上に出来た居場所・ネット上のつながり依存・セーフティネットの地域作り・被害にあったアプリの実機体験」を学びました。

- ・スマホ・ネットには『内』と『外』の問題がある
 - 『内』依存や身近なコミュニティによる問題
 - 『外』金銭・福祉犯の問題
- ・ルールは家庭の状況を把握して、一緒に話し合っ作っていく
- ・何かあったら、大人に相談する
- ・著作権などの教育も大切

講座風景


アンケート「スマートフォン・ケータイを子ども達に持たせる時家族のルール決めや知識の大切さを実感しました。」「スマホも道具であり、いかに自律的に道具を使いこなせるようにしていくか、親こそがよく考えなければと痛感しました。」「Wifiのフィルタリングは盲点でした。」「話を聞けば聞くほど知らなくてスマホを使うことが怖いと背筋が寒くなりました。」「講師が若い世代の方だったので、説得力がありました。こういった講演を小学校中学校で生徒に向けて絶対にやるべきです！！」

健康課から講座の報告

“レディのいい骨入門講座”

(5～6月に3回コースで実施)

＊＊運動や試食を含めた食事の話、女性医師の講演会などの講座を受けた参加者からは「運動を継続したい」「食事バランスを見直したいと思った」など感想が寄せられ、健康を意識する良い機会となりました。子育てに追われるママ達は、自分の健康を振り返る時間が、なかなか持てません。しかし、子育てには体力が必要です。自身の健康を振り返る機会として、今回のような講座の受講はもちろん、健康診査やがん検診等を有効に利用してはいかがでしょうか？講座で試食したレシピです。お試しください。

＜桜エビの炊き込みご飯～桜エビとスキムミルクでカルシウムUP＞ 

材料4人分：米 300g／スキムミルク 24g／桜エビ 8g／塩 1.6g／白ごま 2.8g／万能ねぎ 8g／

作り方：①米を洗って水に溶かしたスキムミルクを加え炊飯器の目盛に合わせて水を入れ炊く。②桜エビは熱したフライパンで焦がさないようにさっと煎り、炊飯器に入れて炊く。③炊きあがったらざっくり混ぜて盛りつけ塩をふり白ごまと小口切りの万能ねぎを散らす。



二人〜三人で実機体験

地域相談機関紹介シリーズ第2弾

「児童家庭支援センターふたば」を訪問しました。

ここは、児童相談所・福祉事務所などの専門相談援助機関と連携して、地域のさまざまな子育て相談を行うセンターです。最大の特徴は、①児童養護施設に付設していることから、子育ての悩み相談だけでなく認定心理士の資格を持つ職員がお子さんの発達についての相談も行っています。さらに、ショートステイ、トワイライトステイといったお子さんを一時的に預かる②子育て短期支援事業も行っています。また「地域に開かれた」施設として様々な行事も行っています。

①児童養護施設とは、児童福祉法41条において「保護者のいない児童、虐待されている児童その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設」と規定されています。②子育て短期支援事業申し込みは各区のこども家庭課までお願いします。

千葉市稲毛区天台3-4-1

Tel 043-285-5634 Fax043-255-6798

